

【筋肉注射、皮下注射チェックリスト】

氏名 ()

○ 一人でできる △ 助言があればできる × 不十分 (再度指導・確認を要する)

目標到達期間 3ヶ月

| 確認項目 | 実施 | | | 実施 | | |
|--|----|----------|----------|----|----------|----------|
| | 日 | 自己 評価 | 他者 評価 | 日 | 自己 評価 | 他者 評価 |
| ① 筋肉注射、皮下注射の目的を述べることができる | | | | | | |
| ② 指示されている薬物の作用と副作用について述べることができる | | | | | | |
| ③ 筋肉注射、皮下注射に関連する筋肉、神経の走行が言える | | | | | | |
| ④ 注射の実施が可能か判断できる (バイタルサイン、筋肉や皮膚の状態、患者の状態) | | | | | | |
| ⑤ 注射指示箋で、患者氏名、薬剤名、用法用量、時間を確認できる | | | | | | |
| ⑥ 指示が不明瞭の時や指示内容に疑問がある場合は、医師に確認できる | | | | | | |
| ⑦ 指示された薬剤を吸い、必要物品が準備できる 注射法にあった注射針の準備ができる | | | | | | |
| ⑧ 単位が理解できる (ml, mg) | | | | | | |
| ⑨ 患者の元へ行き、フルネーム、ネームバンドなどで患者確認を行い、注射指示箋と確認できる | | | | | | |
| ⑩ 患者に注射の目的・内容、実施中の注意事項、副作用について説明し、同意が得られる | | | | | | |
| ⑪ 適切な注射部位を選択できる | | | | | | |
| ⑫ 流水と石けんで手洗いし、清潔操作ができる | | | | | | |
| ⑬ 筋肉注射が実施できる | | | | | | |
| ⑭ 皮下注射が実施できる | | | | | | |
| ⑮ 実施後、患者の状態を観察できる | | | | | | |
| ⑯ 後片づけができる | | | | | | |
| ⑰ 看護記録に記載出来る | | | | | | |

コメント (今後へのアドバイス)

技術指導例
与薬の技術

～点滴静脈注射～

【到達目標】

点滴静脈注射についての基本を習得し、安全に実施できる

【到達までの期間】

6ヶ月～12ヶ月

【看護技術を支える要素】

- ・看護師による静脈注射（点滴静脈注射を含む）実施の法的解釈の経緯・看護業務における位置づけが理解できる
- ・清潔動作が確実に実施できる
- ・患者及び家族へわかりやすい言葉を用いて説明できる
- ・薬剤の作用・副作用がわかる
- ・患者の状態や状況をアセスメントし、患者の個々の状況に応じた点滴静脈注射の実施と管理ができる
- ・使用後の器具等を決められた方法で破棄できる

【研修方法】

集合研修

担当者： 教育担当者

研修内容：基礎教育での知識と看護技術の確認を行う

血管・神経の解剖生理、薬剤の基礎知識、手順

モデルを使った演習、知識確認のテスト

スタンダードプリコーション、

実際の場面を見学

担当者：実地指導者

研修内容：実際の場面を見学する

シミュレーション研修

担当者：実地指導者

研修内容：実施指導者とともに、シミュレーション、実技評価を行う

実施

担当者：実施指導者

研修内容：手順に沿って実施する

振り返り・評価

担当者とともにチェックリストを用い行為を振り返る

| 手順 | 指導時の留意点 |
|--|--|
| <p>1. 準備</p> <p>①注射指示箋で、患者氏名、生年月日、日付、薬剤名、投与方法、投与時間を確認する</p> <p>②流水と石鹸で手洗いを十分に行う</p> <p>③必要物品を準備する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>①注射指示箋 ②シリンジと注射針 ③静脈留置針 ④輸液セット ⑤消毒綿 ⑥ 駆血帯 ⑦ 肘枕 ⑧ 絆創膏 ⑨フィルムドレッシング剤⑩点滴台 ⑪未滅菌手袋 ⑫マスク ⑬速乾性摩擦手消毒剤 ⑭針捨て容器</p> </div> <p>④注射の準備をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・流水と石鹸で手洗いを十分に行い、未滅菌手袋を装着する ・患者氏名、注射指示書箋、薬剤を確認する ・シリンジに適切な注射針をつけ、バイアルやアンプルから薬剤を吸い、輸液パックにミキシングする ・輸液パックに適切な輸液セットを繋ぐ | <p>1. 準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ●新人看護職員の学習準備状況の確認・解剖生理、薬剤管理、合併症とその対策 リスクマネジメント <ul style="list-style-type: none"> 間違った薬剤、間違った量の投与 副作用、有害事象の発現 穿刺時の末梢神経損傷 ●患者のアレルギー歴、禁忌について情報の確認ができる ADLを確認する ●患者になぜ必要なのかアセスメントするように、学習状況の確認と指導を行う ●6R3度の確認 ●適切な輸液セットや留置針選択の根拠を確認する <ul style="list-style-type: none"> 輸液目的・薬剤・投与時間・投与量・患者状況に応じて輸液セット・留置針を選択する 滴下数と輸液量の換算方法について確認する <p style="margin-left: 40px;">輸液セット 20滴/ml 小児用輸液セット 60滴/ml</p> <p>以上を確認後、薬剤準備へ進む。</p> <p>◎緊張や不安が強い場合は、見学→一緒に行う→見守り→一人で行うなど、段階的指導を行う</p> |